

# CASBEE® 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アル・プラザ城陽 増床工事	階数	地上4階, 地下1階
建設地	京都府城陽市	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域, 準防火地域	平均居住人員	0 人
気候区分		年間使用時間	0 時間/年
建物用途	物販店, 飲食店, 工場等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年4月 竣工	評価の実施日	2010年7月8日
敷地面積	53,080 m <sup>2</sup>	作成者	塩川 武
建築面積	23,982 m <sup>2</sup>	確認日	2010年7月10日
延床面積	63,945 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	75%
③上記+②以外のオンサイト手法	75%
④上記+オフサイト手法	75%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	2.6
温熱環境	3.1
光・視環境	3.0
空気環境	3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	4.0
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	3.6

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.5

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物の熱負荷	2.4
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.9
効率的運用	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	3.0
汚染物質回避	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化への配慮	4.0
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 将来にわたり、多様なテナント・リーシング対応が可能なフレキシビリティの高い平面計画としている。	<b>その他</b> 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 同一フロアで、各ゾーン単位で冷房・暖房が可能な空調システムが計画されている。	<b>Q2 サービス性能</b> 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 193m <sup>2</sup> のフードコートがあり、広いレストスペースの確保ができています。
<b>LR1 エネルギー</b> ゾーン別空調による、過剰空調の低減。 電気式ヒートポンプパッケージ型エアコンの採用。 外調機(外気処理空調機)の採用による外部負荷の低減。 高効率HF蛍光灯の採用。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型衛生器具(節水型便器)の採用。
	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ステージが設置されており、地域のコミュニティ施設として利用可能である。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 特に無し。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい